

(英語版)

(アラビア語版)

(目次)

見果てぬ平和 ― 中東の戦後七十五年 (六十九)

第3章 アラーの恵み―石油ブームの到来 (六)

六十八 OPEC結成(一―四)



戦後の復興期で石油の需要が急増したため石油各社は値段を据え置いたまま生産を増やすだけで十分な利益を上げることができた。石油が安いことは消費国或いは消費者にとって朗報である。中でも日本は最も大きな恩恵を受けた国であった。安い石油を武器に日本は戦後復興、さらに高度成長へ向けてひた走りに走った。

1959年に戦後不況で石油の需要が落ち込むと、セブンスターズは原油の買い取り価格(公示価格)を引き下げた。それまでインフレの昂進により実質的な実入りが減少していた産油国は、公示価格の引き下げでさらなる歳入の減少に陥った。

(続く)

荒葉 一也

E-mail: Arehakazuyal@gmail.com